

普及情報

台風7号の接近・通過による農作物等の被害防止に向けた技術対策について

行方地域農業改良普及センター

平成28年8月16日

台風7号が17日午前には暴風域を伴い、関東甲信に接近するおそれがあります。台風7号による暴風雨により、県内の農作物等に影響がでることが心配されることから、主な品目について、ハウスの点検等の事前対策および台風通過後の事後対策についてまとめましたので、被害防止や被害軽減の参考としてください。

なお、人命第一の観点から、圃場の見回り等については、気象情報を十分確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないこと。また、大雨が治まった場合の見回りについても、増水した水路その他危険な場所に近づかず、足場等、圃場周辺の安全に十分注意し、転落、滑落事故など二次災害の防止を徹底し慎重に行うようにしましょう。

普通作

水稻

(台風事前対策)

- ・ 排水路の詰まり等がないか点検するとともに、排水路の清掃・補修を行い、水田に入った水は速やかに排水出来るようにしておく。

(台風事後対策)

- ・ 冠水した圃場では、一刻も早く排水措置を講じ、稲体を水面上に露出させる。
- ・ コンバイン収穫は籾水分が25%以下になるのを待って行うが、やむを得ずこれを超えるような、高水分籾を収穫する場合には、乾燥機へ速やかに(4 時間以内) 張り込みを行う。また、連続した乾燥を行うと同割れの発生につながるので、籾水分18%まで乾燥した時点で一時中断し、半日程度貯留したのちに仕上げ乾燥を行う(二段乾燥)。

大豆

(台風事前対策)

- ・ 圃場の明きょ・排水溝を点検するとともに、排水路の清掃・補修を行い、速やかに排水されるようにする。

(台風事後対策)

- ・ 速やかな排水に努める。特に水田に作付けした大豆は畦畔を切るなどして排水に努め

る。

- ・ 圃場の浸水により茎疫病等の発生が懸念されるため、防除対策に努める。

野菜

施設野菜

(台風事前対策)

- ・ ハウス周囲に排水溝を設けて施設内への水の侵入を防ぐ。
- ・ ハウスバンドや被覆フィルムの取り付け金具等に緩みがないか確認する。
- ・ 被覆資材の破損がある場合は、テープ等で補修しておく。
- ・ 換気扇等のあるハウスは、密閉して運転し、施設内に負圧をかけておく。
- ・ 出入り口に隙間のあるパイプハウスは、ビニルで覆い、密閉度を増す。
- ・ 燃料タンクは、転倒しないように安定性の確認を行う。
- ・ ハウスの周辺を清掃し、強風で飛散する資材等が無いようにする。

(台風事後対策)

- ・ 施設内に雨水が浸水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。
- ・ 浸水により作物の根が弱るので、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。
- ・ 軟弱野菜類では、台風通過後の急激な高温による萎凋、傷みを軽減するため、遮光ネ

ットにより日射を抑制する。

- ・ 病害虫の発生が懸念される場合は、必要に応じて薬剤防除を実施する。

露地野菜

全般

(台風事前対策)

- ・ 圃場周囲の排水路を確保する。
 - ・ 土砂水の浸入が常態化している圃場では、浸水を少なくするため、水の浸入口に土のうを積んでおく。
 - ・ 支柱や防風ネットの強度を確認するとともに、しっかりと固定する。
 - ・ これから作畝する圃場では、仮の畝たてを行い圃場内が乾きやすいようにしておく。
- また、排水が悪い圃場では、通常、畝たてを行わない圃場では畝たてを実施し、畝たてを行っている場合はいつもより高畝とする。

(台風事後対策)

- ・ 圃場が浸水、冠水した場合は明きよを掘るか、ポンプによる汲み上げなどできるだけ早期の排水に努めるとともに、マルチ栽培ではマルチをめくるなど、圃場の乾燥を促す。
- ・ 茎葉に付着した泥をきれいな水で洗い流し、損傷した茎葉を取り除く。
- ・ 圃場の乾き具合を見て早めに中耕、培土を行い、発根を促し草勢の回復を図る。

- ・ 中耕・培土の際、草勢を見て追肥や液肥の葉面散布を行う。
- ・ 細菌病等の発生が懸念されるため、収穫前日数に注意して薬剤防除を実施する。

ナス（茎葉、果実の損傷の場合）

- ・ キズ果、変形果を除去する。
- ・ 草勢の回復を図るため、収穫は少し早めに行う。
- ・ 果実腐敗症などの発生が懸念されるので、排水対策に努める。
- ・ 下葉や罹病した葉を除去し、通風をよくする。

ネギ（葉身の折れ曲がり、一部倒伏の場合）

・ ネギは湿害を受けやすいので、圃場が浸水、冠水した場合は直ちに明きよを掘り排水に努める。

- ・ 倒伏した場合は、直ちに株起こしを行う。
- ・ 葉身が損傷した場合、土寄せはすぐには実施せず、新葉の伸びを確認してから行う。
- ・ べと病などの発生が予想されるので収穫前日数に注意して薬剤防除を実施する。

果樹

ナシ、カキ、リンゴ、クリ、ブドウ

(台風事前対策)

- ・ 支柱やネットの強度を確認し、弱い部分は補強する。
- ・ 棚栽培では、棚面の随所に支柱や針金で下方への誘引を行い、上下動を抑える。
- ・ 立木栽培では、しっかりとした支柱を立てて結束し、枝折れや倒伏を防止する。
- ・ ビニルハウスでは、ビニルの緩みや破れ、隙間がないか確認し、破損等あるときは修

復する。

- ・ 簡易被覆ハウス(トンネル)で、強風にあおられるおそれがあるときは、ビニルの除去などを検討する。

(台風事後対策)

- ・ 浸水や滞水したほ場は明きよを掘り、すみやかな排水に努める。
- ・ 商品価値のない落下した果実は園外に持ち出すなどして処理する。
- ・ 樹の損傷部位(折損)をせん定し、切り口を塗布剤で保護する。
- ・ カキ、リンゴ、クリなど立木栽培で倒伏した樹は出来るだけ早く引き起こし、根元がぐらつかないように支柱で固定する。
- ・ 枝葉の損傷などによって、病害の発生が懸念されるので、収穫前日数に注意して薬剤

散布を行う。

花き

(台風事前対策)

施設花き全般

- ・ ハウス周囲に排水溝を整備し、雨水の浸入を防ぐ。
- ・ 育苗箱など移動可能なものは、作業小屋等の風の当たらないところへ移す。
- ・ ハウスの支柱やネットを張り直し、強度を高めておく。
- ・ ハウスの天井や側面の被覆資材に破れや隙間がないかを確認し、破損等のあるときは

修復する。

- ・ 台風通過前にハウス内部を密閉し、被覆資材を施設本体に密着させてばたつきを防ぐ。

露地花き全般

- ・ ほ場の周囲に排水溝を設置し、排水が速やかに行えるようにしておく。
- ・ 強風により、ネットのずれ、支柱が倒れて茎曲がり等が発生するので、事前に支柱の点検、補強及びネット上げをしておく。

(台風事後対策)

施設花き類

- ・ 台風通過後は、速やかに開口部を開放し、換気を行う。
- ・ 強い日射による萎れが予想される場合は寒冷紗を被覆する。

- ・ 薬剤散布にあたっては薬害に注意し、高温、強日射下での作業は控える。
- ・ 雨水の浸入や雨漏りによるハウス内の滞水は、根腐れや土壌病害発生の原因となるので、強制排水を行う。
- ・ ハウスの天井や側面の被覆資材に破れや隙間がないかを確認し、破損がある場合は修復する。

露地キク

- ・ 倒伏したものは速やかに起こし、茎の曲がりを極力抑えるようにする。
- ・ 折損した葉、茎は、品質を悪化させないために整理し、下葉についた泥などはきれいな水で洗い流す。
- ・ 葉、茎の損傷により病害の発生が懸念されるので早急に薬剤散布を行う。
- ・ キクは浅根性で根腐れを受けやすいため、速やかに排水を行う。
- ・ 草勢回復のために、液肥の葉面散布を行う。
- ・ 出荷するものについては、選花選別を徹底する。

グラジオラス

- ・ 倒伏したものは速やかに起こし、茎の曲がりを極力抑えるようにする。
- ・ 浸水を受けたほ場や水田転換畑などは根腐れによる葉先枯れや球根腐敗病、首腐病などの病害が発生しやすいので、速やかに排水を行う。
- ・ 葉、茎の損傷により、病害の発生が懸念されるので早急に薬剤散布を行う。

- ・ 出荷するものについては、選花選別を徹底する。

畜産

飼料作物

- ・ 滞水しているほ場の早期排水を図る。

畜舎等施設

- ・ 施設の破損状況を点検し、修復する。
- ・ ふん尿が飼料に触れないように注意する。
- ・ 生乳処理室などに風雨が吹き込んだ場合は、器具機材の消毒を行う。
- ・ 浸水した畜舎は速やかに排水対策を講じ、舎内の乾燥に努める。畜舎の滞水が引き次第水洗し、消毒剤や石灰の散布及び塗布を行う。
- ・ ふん尿貯留施設、堆肥舎等から「れき汁」が流れ出ないように、側溝の設置や副資材の

追加を行う。

- ・ 乾燥ハウスが破損した場合、ハウスの補修を早急に行う。ビニールなどが破れて雨水

が入った

排せつ物は堆肥舎に移し、オガクズなどで水分調整後、切り返して発酵させる。